

南瀛之碑



MARSHALL AND GILBERT ISLANDS
BEREAVED FAMILIES ASSOCIATION
CHAIRMAN 浮田信家

マーシャル方面遺族会
(旧クェゼリン方面戦没者遺族会)
郵便番号 154
世田谷区野沢 3-11-3
電話 03-424-4300
振替口座東京 0-93487 番
編集兼発行人 佐藤宗不

ギルバート諸島に

忠魂慰霊碑を〈その二〉

会長 浮田信家

本年三月一日、キリバス共和国大統領閣下から、「タラワ島に慰霊碑建立についての要望はすべてその通り承認する」とのありがたい御回答を頂きました。碑の製作等については、ギルバート部会の皆様によって順調に進められており、十一月二十五日の、タラワ、マキン玉碑の日には現地での除幕式、慰霊祭が行われることになりました。

碑の清祓式と現地除幕式、慰霊祭を次の通り行いますのでお知らせいたします。

◎ 清祓式 七月二十五日(日) 正午

靖国神社参集所集合(雨天でも行います) 午後一時昇殿参拝(奉告祭)、引つぎ遊就館前で清祓式を行い、その後靖国会館で経過報告と直会をいたします。

慰霊碑は、その日のうちに横浜港に運ばれ再び日本に還ることはありませんので、多くの会員に御参列頂きたいと思えます。御参列希望の方は、準備の都合がありますので、七月十五日までにはがきでお申込み下さい。申込後変更のときは電話でお知らせ下さい。

◎ 現地除幕式・慰霊祭 十一月二十五日(木)

ギルバート諸島タラワ環礁ベシオ島

行程は十一月二十一日(日)靖国神社参拝の後成田空港発、グアム、クェゼリン、マジユロ(二泊)、タラワ(二泊)、ナウル、サイパンを経由して十一月二十七日(土)成田帰着となります。

参加申込みは必ずはがき又は封書でお願いします。電話での申込みは間違いのようになりますのでお受けできません。大分先のことですから今すぐ決定し難い方も居ると思えますが、行きたいと思う方は申込みをして下さい。後日取消しもできます。くわしいことは、13頁を御覧下さい。

目次

ギルバート諸島に忠魂慰霊碑を 〈その二〉

..... 会長 浮田 信家 1

完成間近 ギルバートの碑

..... 世話人代表 田中 雄吉 2

お尋ねに答えて..... 事務局 2

音羽侯爵こぼれ話

..... 小笠原正義 3

慰霊祭・総会・直会

..... 佐竹 エス 4

クェゼリンの思い出

..... 岩村 光男 6

マーシャル諸島情報

..... 靖国神社考 7

世相管見..... 市川 市郎 9

このお顔 見覚えありませんか

..... 松本 孝子 9

戦地からの便り..... 山口 裕子 10

会員の便りから..... 11

ギルバート諸島戦没者慰霊碑

除幕式・慰霊祭の御案内

..... 事務局 13

事務局だより..... 13

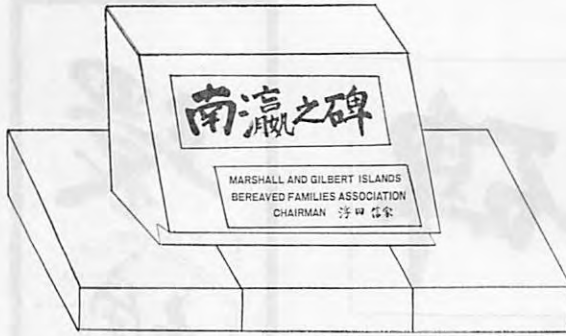
寄附者芳名..... 14

完成間近

ギルバートの碑

世話人代表 田中雄吉

〓環礁36号々でお知らせしました通り私どもギルバート関係遺族の誠心を結集して、ギルバート諸島戦没者の慰霊碑(クエゼリン島の本碑に対しては副碑)の建立を計画しました。
キリバス共和国への申請は、浮田会長にお願いして手続きをとって頂き、一頁記載のとおり正式に許可を頂いております。



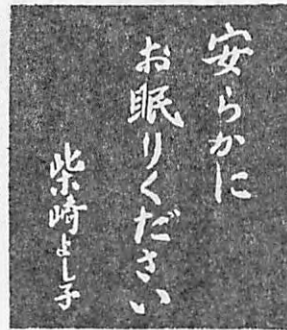
予 想 図 (なんえいの碑)

山の建立資金をお寄せ頂き一同感激しております。建碑の計画実現の態勢を整えるために去る三月十四日に、有志の方々参加の上協議の結果、次の通り部会を結成し、今後の進め方などを定めました。

- 一、名称 マーシャル方面遺族会ギルバート部会と称する
- 二、目的 ギルバート諸島戦没者慰霊碑の建立
- 三、執行 世話人の合議による
- 四、期間 慰霊碑が完成し、現地慰霊祭を行ったとき解散する
- 五、経費 部会運営に要する印刷、通信その他の経費は、世話人有志の拠出金を以て支弁し慰霊碑建立のための寄附金を使用しない
- 六、会計 寄附金は世話人代表が管理し、解散の際精算の上、残金のすべてを慰霊碑の維持費としてマーシャル方面遺族会に移管する
- 七、世話人 柴崎 晃 松下竜二 嶋田正彦 中村 久 津久井 艶子 長尾静子 田中雄吉 (代表)
- 八、連絡所 千葉県市川市幸二ノ一ノ 二一八〇四 田中雄吉方 電話 〇四七三―一九六一五三〇四

尚、碑のデザイン等について次のとおり決定し、目下製作中であります。

- 一、形状 予想図の通り
- 二、要目 碑の高さ60cm 横90cm 台石は150cm×100cm 重量は約一・四トン
- 三、題字 『南瀛之碑』浮田会長揮毫
- 四、碑文 黒御影彫込み北側に嵌込む和英両文にて南側に嵌込む稲田石(クエゼリン島の本碑と同じ)
- 五、製作 第一石材工業株式会社
- 六、建立場所 タラワ環礁 ベシオ島
- 七、据付工事 現地政庁に依頼
- 八、輸送 明正交易起業株式会社



柴崎司令官夫人の碑文

お尋ねに答えて

事務局

昨年末以来会員各位から、次のようなお尋ねが相ついでにあります。
「ギルバート諸島玉碎将兵の納骨堂建設委員会の計画した平和公園と納骨堂建設の事業を引きついだという人がいるが、本当か? 又、同委員会の集

めた建設資金も引きつぐことにしたのか? 委員会事務局長の職をマーシャル方面遺族会が引きつぐと聞いたが?」等々

結論を先に云いますと、これ等はすべて、否です。事実無根のデマに過ぎませんが、最近になって〓水交々誌やその他の公刊誌・紙に掲載されて疑問を持つ人が増えましたので、事実をお知らせいたします。

昨年十二月以来、前記委員会から数度本会に次の申し入れがありました。

「当委員会は解散の已むなきに至った。当委員会の事業を貴会に一切お任せし、当委員会の所持金は精算の後、貴会のギルバート諸島慰霊碑建設費用としてお渡ししたい」

これに対して本会は、二月十一日に次の通り回答しました。

「本会は、所管全地域を象徴する慰霊碑をクエゼリン島に建立してあり、これに類するものは他に設置しないとの合意がある。

よって貴会の申し入れの事業の引きつぎは規模の如何によらず、受けられない。事業を継承しない以上、貴会の所持金もまた引受けることはできない。

目下タラワ島に碑の建立を計画しているのは、本会会員中の一部有志である。本会はこれに協力を約束したものである。このことは〓環礁々36号によって御理解頂きたい」と。

音羽侯爵こぼれ話

小笠原 正義

以上でおわかり頂けたことと思いますが、前記委員会と本会とは今まで何の関係もなく、当然資金的にも全く係わりがありません。この方針は今後とも変えませんが、誤解されないようお願いいたします。

今は昔、約五十年前の昭和八年、海軍経理学校の夏休暇中のこと。ふだんはものに動じない父が、珍しく慌てて「正義、朝香宮様からのお電話だ」と叫んだ。

コレスポンドの海兵62期には、朝香宮正彦王殿下と伏見宮博英王殿下の、御二方の宮様が居られることは承知して居たが、あまりに意外なことなのでいぶかりながら受話機をとったところ「天気はよし、今から銀ブラに行きた



いのだが案内しろ」とのこと。気易く「ハイ」と御返事したものの、さあ家の中は大騒ぎ。それもその筈、当時は宮様と言えば、文字通り雲上人であり現代風に言えば、宇宙人から突然テレパシーを受けたようなものだった。ともかく打合せ通り、開襟シャツの軽装で出掛けた。

西洋茶漬屋（西園寺元老宅へ毎日スリーブをお届けしているとの噂の高かった店）での夕食をはさんで、前後二回の銀ブラを重ねたが、宮様はオードリー・ヘップバーンの傑作映画「ローマの休日」よろしく、すっかりリラックスせられて、終始上機嫌であられた。

私の方は初め冷汗ものだったが、そのうち、宮様の気取らない温い御人柄にふれて、身分をこえた同期の桜の良さを、泌々と味った次第で、真に心よい出会いであった。

さて、昭和十三年七月、私は庶務隊長として上海特別陸戦隊に着任した。大川戸伝七司令官から「当隊には音羽侯爵（正彦王殿下は、昭和十一年に臣籍に降下され音羽家を創設された）が

居られる。御学友として外出時は、特に油断なく行動を共にするように」との特命が与えられた。そこで同期の平塚警備隊長と共に、常時音羽侯爵と行動を共にする光栄に浴した。

当時有名だった上海の戦乱は、前年末には一段落したものの、日支の対立はますます尖鋭化し、戦線はいよいよ拡大していた頃で、上海も何時どこで何が起るか解らない不気味さが漂っていた。

私などボデイガードと言った柄では無かったが、肚をきめ心を引き締めて外出の時は努めて御供役を果たした。と言っても、公式の場合を除いては同期の音羽中尉であり、お互の間は「俺、貴様」の仲で一般の者と別に変りはない。否、変らぬように努めたと言うべきだったかも知れない。

何といっても上海特別陸戦隊の勇名が、日本全国に鳴り響いていた頃として皇軍慰問団の来訪が多く、私なども随分、戦蹟案内に狩り出された。

この間、音羽侯爵は誰彼の区別なく伺候を受けて居られたが、いわゆる名士諸公には食傷気味とお見受けせられた。

この頃のこと、陸軍若手の御招待に応じられたことがあった。私も役得で主賓音羽侯爵の隣席を与えられた。型通り宴会は進んで、無礼講となり、座は乱れ、隠し芸が始まった。その中、酔った二、三人が、肩肘張って、対ソ、

対支政策の議論を吹き掛けて来た。音羽中尉は「私は下級士官で政治のことは解らない」などと受け流して居られたが、余りの執拗さに、突然立ち上られて「御馳走様でした。最後に歌を合唱して御別れ致します」と御発言。拍手喝采が静まったところで合唱したのが次の替歌。

満蒙シベリア未だ未だ小さい小さい

バイスラ、ギンギラギン

おらが墓場は太平洋

それもそうかいな

バイスラ、ギンギラギン

さすがの猛者連中も、啞然とする中をサツと敬礼、スーツと玄関へ。「青年の客気」と言えばそれまでだが、あの水際立った引きあげ振りは、今も懐しく想い出される。

秋を迎え、漢口攻略作戦が開始され音羽中尉も山砲隊長として出動せられた。進撃に次ぐ進撃の後、半壁山では大激戦となり、音羽隊の山砲も過半数壊滅し、死傷者が続出した。陸戦隊本部では、万一を配慮してか、音羽中尉を警備の機銃隊長に配置替えをした。

ところが数日後、今度は音羽隊に、至急、江上から漢口に突入すべし命令が発せられた。陰に当時、第一師団長として中支へ出征せられて居られた父君朝香宮鳩彦王殿下の御要望が、寄せられた由の噂が流れたが、私共にはその真相の程は解らなかつた。

いづれにせよ、音羽隊の到着は、僅

かの差で漢口陥落後となり、同隊は引き続き続いて、武漢三鎮の警備のため残留を命ぜられた。音羽中尉は、心楽しからず、大部荒れて居られるとの情報、帰隊者から陸戦隊本部にもたらされた。そこで私が派遣され、約半カ月間同室で、文字通り寝食を共にする機会に恵まれた。そして袴を脱いで御心境の一端を承った。

「今度の戦で、俺は可愛い部下を殺した。その姿は今も胸に焼きついていゝ。然も俺の生れが皇族だと言っただけで、部下と離され、安全な配置に変えられた。全く残酷だ。俺は面目や功名心から、漢口入城式参列にこだわっているのではない。労苦を共にした戦友と肩を組んで、その使命達成を共に祝いたかった。皇族乃至華族は、今日確かに特別な礼遇を受けている。それだけに非常の時は進んで先頭に立つべきだ。そうでなければ、皇室の藩屏との言葉が泣く」等々、その高潔な御人柄から発する、火を吹く熱情の御言葉が、今も心を打つ。

そして今次大戦に於て、その御考えを身を以て実行され、太平洋に御墓を建てられたことは、唯々頭が下るばかりである。使命感を持たないリーダーや、社会的義務感を感じないエリート連中は、正に慚死すべきか。

(海経二三期・57・5・5)

写真は、昭和13年秋、漢口の中山公園での音羽侯爵(向って左)と筆者(右)

慰霊祭 総会 直会

佐 竹 エ ス

二月六日(土)寒波に覆われて青空は見えても寒い朝です。

靖国神社には、久方ぶりに英霊とお会いできる喜びを胸のバッヂに秘めて、全国各地から続々とおなじみの皆様が集ってきました。その数一三〇名を超えました。

浮田会長御夫妻の姿を探す何人かに「会長さんは？」と尋ねられました。「おけがをされて今日はお見えになりません。あとでお話される筈です」とだけ答えておきました。

会が始って以来、会長の欠席は例のないことです。佐藤副会長の心労が思いやられます。役員の皆様も例年以上の立派な慰霊祭をと、心がけました。

今年の玉串奉奠者には、子供や孫の代表も選ばれ、会の方針が示されたように思われました。昨年のように神官から参拜の方式を教えて頂き、昇殿参拜。身の震えるほどの寒さです。身も心も引き締まります。八十歳を越した方もしっかりと足どりで進まれました。

御詣りがいつまでも続けられますよう、お守り下さいとお祈りしました。御神鏡に若いままのお顔が映っている感じがしました。

総会は、片山幹事の司会で、大高幹事が議長になって進められました。

佐藤副会長から「本会は英霊をお慰めすることを唯一の目的としている。来年も再来年も御家族お揃いでおいで頂きたい」と挨拶があり又、浮田会長のおけがのこと、手術後の経過は極めて宜しいがお見舞は暫く控えてほしいとのお話がありました。

五十六年度経過概要を佐藤副会長から、同会計報告(別表)を橋口副会長から、監査報告を秋山監事から夫々報告され、異議なく承認しました。

五十七年度の会務計画について佐藤副会長から「ギルバート諸島関係者よりの要請により、会長からキリパン共和国に副碑建立の申請をしてあり同国の承認が得られれば、碑の作成、清祇式、現地慰霊を行うことになる。その他は前年どおり」と、提案され、予算(別表)を橋口副会長から説明があり、一括審議し可決されました。

役員補充については、末広監事が病気のため辞任したので、土岐達雄、高橋鎮夫両氏を補充選任(任期一年)とし、去る一月十日に浮田会長から渉外担当副会長に三ツ木正次氏を、幹事に田中雄吉、山口良二両氏を夫々指名さ

れた旨の報告がありました。

つづいて、三月末で退職される事務局の安藤さんに対して、佐藤副会長からお礼の言葉が述べられ、記念品が贈呈されました。佐藤副会長は「安藤さんの後任者を推せんして頂きたい。後任者の来る迄は、役員が手わけをして事務をとるので、多少のサービス低下はお許し頂きたい」とお願いしました。

以上で総会を終り、松平宮司様から「宮司として、又会員の一人として御挨拶を申し上げる」と前置きをしてお話されました。また、浮田会長に慰霊祭が立派に行われたことを報告いたします、と言われました。いつも変わらない宮司様の御心遣いがありがたく思いました。

直会旅行は今回が十三回目。定連が多いようです。始めてお見えになられた方も、慰霊祭、総会、と無事終了、ホッと直会旅行参加者八十四名は、和気あいあい、二台のバスに分乗して伊香保へと出発しました。

例年通り、お茶、お弁当、果物が用意され、楽しい遠足のようなようです。

浮田会長御夫妻がいらっしゃらないのが一寸気が罹りますが、佐藤副会長の心遣いで、楽しい直会旅行であるよう、旅行幹事の心配りも大変でした。

伊香保温泉到着は四時頃でした。坂の町、石段の町伊香保は凍ってすべり易くて心配しましたが、英霊が守って下さるから安心。ゆっくり温泉で疲れ

たままお祈りし、お守り下さいとお祈りしました。御神鏡に若いままのお顔が映っている感じがしました。

第18期決算報告書 (自56. 1. 1 至56.12.31)

マーシャル方面遺族会

一般会計第19期予算

(自57. 1. 1 至57.12.31)

1. 一般会計収支計算書

<収入の部>

科 目	金 額
前期繰越金	1,830,884
会費(過年度分)	274,000
会費(当年度分)	1,422,000
寄附金等	1,987,867
受取利息	106,778
雑収入	115,340
小計	3,905,985
合 計	5,736,869

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	193,280
運 営 費	2,101,095
刊 行 費	756,990
印 刷 費	62,045
通 信 費	169,900
事務所借用費	342,968
振替払込料	33,380
事務用品費	42,855
会 議 費	156,986
雑 費	10,700
予 備 費	0
退職金勘定繰入	100,000
小計	3,970,199
後期繰越金	1,766,670
合 計	5,736,869

2. 一般会計財産目録 (56.12.31 現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	80,525	前受会費	704,500
普通預金	1,125,116	預り金 (宿泊・直会)	906,000
定額貯金	2,100,000	小 計	1,610,500
振替貯金	71,529	後期繰越金	1,766,670
合 計	3,377,170	合 計	3,377,170

<収入の部>

科 目	金 額
前期繰越金	1,766,670
会費(過, 当年度分)	1,500,000
寄 附 金	2,000,000
受 取 利 息	100,000
雑 収 入	50,000
退職金勘定繰入	600,000
合 計	6,016,670

特別会計収支計算書

1. 収入の部

前期繰越 2,500,000

計 2,500,000

2. 支出の部

当期支出 0

3. 後期繰越 2,500,000

退職金勘定収支計算書

1. 収入の部

前期繰越 500,000

一般会計より繰入 100,000

計 600,000

2. 支出の部

当期支出 0

3. 後期繰越金 600,000

ギルバート副碑建立寄附預り金勘定計算書

1. 収入の部

当期預り金 268,000

計 268,000

2. 支出の部

当期支出 0

3. 後期繰越金 268,000

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	200,000
運 営 費	2,000,000
刊 行 費	700,000
印 刷 費	50,000
通 信 費	180,000
事務所借用費	380,000
振替払込料	50,000
事務用品費	70,000
会 議 費	150,000
雑 費	50,000
予 備 費	50,000
退職金	1,000,000
小計	4,880,000
後期繰越金	1,136,670
合 計	6,016,670

を癒してから、例年通りの直会が、賑やかに始まりました。お料理もよし、バンドのサービス、お国自慢の歌あり踊りありのなごやかな一夜でした。

旅館は土日のため超満員、旅行幹事の岡野さん荒木さんは温泉にも入らず部屋の状況や非常口の見廻り、もし異状事態発生の場合は、非常階段は狭く又凍っているようなので危険だから敷布団かマットレスを敷いてすべり降り、山の方へ集めた方が安心、と話していました。

翌朝九時出発、寒いが晴天。真白い雪の水沢観音に詣で、卯三郎こけし工場見学。原木からこけしの出来る迄の工程を見学。大きなこけしを背景に記念撮影。そして好みのこけしのお土産が大きな荷物になりました。尚当所で五十二年に、タラワ島墓参に御一緒にした井田直忠さんが見えになり全員に車中用のお菓子を頂戴致しました。

昼食は高崎の白衣観音近くのヘルスセンターで、ショーを見ながらのお弁当です。白衣観音参拝はセンターから近いので自由参観。美人の白衣観音様と記念撮影、逆光でむすかしそうです。見学もこれで終了。一路東京へと向いました。高崎駅近くで途中下車の方と来年の再会を願いながらお別れ、帰路は、荒木幹事の御指導で「あの椰子の島」を合唱。予定通り四時頃東京駅東へとお別れ致しました。

クエゼリンの思い出

岩村光男

私は、熊本の大塚山太郎氏より環礁を見せて頂きました。そして東京に電話を致しました。今日貴殿よりくわしいお便りに接し感無量であります。

私の胸の中には、あのクエゼリンに はじめて入港した日の事が忘れられません。海軍通信学校第五十七期を昭和十六年十一月十一日に卒業し、同日第六通信隊付を命ぜられ同じ五十七期の同年兵七十五名と共に十二月三日東京芝浦港を出港しました。

六〇〇トンの箱根山丸にはルオットに行く二十二航戦(二十四かも)の整備員も同乗し一路南に航海を続けました。十二月八日が私達にも参りました。大戦果を船の上で聞きました。

さあそれからが大変です。必ず敵が来る。折から十二月というのに海上は夏です。舷側を洗う海の色はもう内南洋近くの黒潮です。紺色の海です。船の上ではドラム缶に真水を入れ漂流の時にそなえています。その作業中にも船はどんどんマーシャルへ、クエゼリンへと進んでいます。敵には出合いませんでした。

十二月十六日私達の船は先ずメジュロ(貴殿はマジュロと言っておられました)に夜入港しました。そして海軍設営隊の宿舎で映画を見ました。蚊の

多い島でした。早朝の出港。その翌日南海独特のスコールが来しました。そしてそのスコールの上がって行くかたに虹が出ました。まだ島は見えませんが。船は入港用意をしております。虹のそばに無線塔が二本見えました。その下に平らな椰子の島があります。六通送信所(イヌブージ島と言いましたか)がスコールの晴れ間に見えて来しました。ああはるばる来たものか、ここが赤道直下マーシャル群島!

私達の船は内海に入港しました。すぐ島民がカナードでやって来しました。この島には椰子の実しかありません。すごくきれいな海の色、椰子の実の青色。そして今から私達のやる仕事は、モールス受信には自信のある者ばかり七十五名、ハリキルぞ。

紺色の海、椰子の木、低い白い島、その島に足をふみ入れました。そまつな兵舎(木造)が島のやや中央部にありました。私達の先輩が防暑服で待っていました。私達はすぐ電信室に入りました。受信機は短波の日本最高のものがズラリ並んでいます。かすかにレシーバーよりもれてくるあの独特の音色ビービピットンツートン、外信班の部屋は別室です。ハワイの無電が通信学校の練習の時のように極めて良い感度で受信できます。それを東京通信隊にどんどん中継しています。

日本海軍では大和田通信隊(東京)の次がこの第六通信隊と言う順で重点

を置いています。ハワイの敵信をこの位受信状況の良い処はありません。当直がすめば夜食、蚊にササれないための防虫クリーム、その当時としては最高のものが用意されていました。ハワイに近い島で今戦争をやっているのだからかと思われる位平和な楽しい毎日でした。私の記憶では外信班に大学出の若い士官が居られましたが、林大尉もきつとその内に居られたと思います。

しかし昭和十七年二月一日の早朝にこの平和な島に突然とんでもない事が起りました。私はデング熱で兵舎の一部の病室で熱がやつとさがり吊床の上でうとうととしていました。

午前四時三十分頃、私の体が吹きとばされたと思う位強烈な爆風が起りました。とび起きて外へ出ると、第六根拠地隊司令部の庁舎より茶色の煙が上がっています。

司令部に爆弾命中。司令官即死。折からキーンと言う音がすぐ近くの港の方でもします。目を港の上空に向けてると垂直に今引上げているドントレス艦上爆撃機が見えます。この小さな島に敵空母よりの空襲です。港の中の艦がやられていきます。ずぶぬれの負傷者が十数名病室にきました。艦が沈んで岸に向っているうちにサメにやられた者もかなりあった模様です。

この空襲はエンタープライズ、ホーネットよりのもので指揮官はあのハル

ゼーだった模様です。その後私がこの島を十八年一月五日軍艦川内に転勤するまで空襲や敵襲があった事はありません。

戦時給与品のビール、ブドー酒等を月夜の海岸で同年兵と汲みかわしたあの頃、毎日やって来るスコールの後の椰子の実ちぎり。夜の魚つり、思い出はつきません。

苦しい事もありましたが今は楽しかった事ばかり思い出されます。

昭和十八年十一月二日私の乗った川内は、ブーゲンビル沖で敵と夜戦し沈没し私は右足をやられ、漂流を続けて無人島に上り、九死に一生を得て内地の海軍病院に帰りました。

昭和十九年二月、病室で明日手術と言う日に、クエゼリン、ルオット玉砕の報を聞きました。

まだ健在であった同年兵、大和田通の次に位するあの強大な六通がやられた。あのサンゴ礁の島に米軍が上陸した。

私はああ!と思わずさげびました。電信兵だけでも、約百名はいいたのでは、その中に大学出の若い優秀な人も大勢いました。

私は今でもあのリーフ、紺べきの海を忘れられません。

貴殿の言われました「環礁」の一日も早く着く事を希っています。



マーシャル諸島情報
 マーシャル・アイランズ・
 ジャーナル紙より

☆3月26日号より

旧ゲートウェイホテル解体

マジュロ発 3月23日

ホテル建替えの為に今週イースタンゲートウェイ・ホテルの取り壊しが始まった。まず南棟から解体され、来月には北棟も姿を消す。

(注) 本会員も多数利用した。同ホテルが建替えの為に解体されました。新ホテルは既に海側の敷地に建設が開始されております。

なお同ホテルはナウル資本の経営です。

☆3月30日号より

失業問題

マジュロ発 3月26日

首都マジュロにおける10代若年者の失業に関する調査がモービル・トレイニング・ユニット(MTU・本部ローラ村)によって行なわれ、一千人以上の10代の若年失業者がいる事が明らかになった。

調査はパブリック・サービス・コミッション(公共サービス委員会)の管理で行なわれた。

ミッテル・ラルホー氏によると調査は2週間にわたり、面接により行なわれた。

(注) 現在マーシャル諸島における社会・経済上の大きな問題のひとつが若年層の失業問題である。国内にこういった産業がない事によるが、社会構造や教育・考え方など複雑な事情がからんでおり、根の深い問題である。また20代の失業が無いとは考えられないので、失業者はもっと多くなると思われる。

☆3月30日号より

コブラ生産高について

81年度コブラ(ヤシの実)生産高は年間5千8百トンであった。島別ではアルノが860トンで最高。次いでアイリングラブラブが703トン、マジュロは340トンであった。

☆3月30日号より

日本との漁業協定について

マジュロ発 3月25日

日本・マーシャル諸島共和国の両国は82年度の漁業協定について合意に達した。新協定においては入漁料は昨年度の100万ドルに対して、125万ドルと25万ドル増額された。

調印はマジュロにおいて4月中に行なわれる。

☆4月2日号より

マーシャル諸島共和国成立

マジュロ発

マーシャル諸島政府は3月12日付で正当に制定された憲法により、マーシャル諸島共和国 (Republic of The Marshall Islands) の成立を宣言した。

(注) 米国と信託統治終了の為の交渉が行なわれており、現在のところマーシャル諸島共和国は信託統治下における自治政府と思われる。

☆4月16日号より

カツオブシ工場開設

マジュロ発 4月12日

マーシャル・日本合弁のカツオブシ工場の建設が始まった。ナンカツ(日本)とマーシャル側企業・レブマー・アンド・J&P・カンパニーとの合弁である。

イロイジュ・ジョバ・カプア氏とトエジュ・チェモア氏が事業責任者である。

アマタ・カプア大統領、トニー・デ

ブルム外務次官、カサイ・ノート資源開発大臣はじめ多数の政府関係者が出席して、建設開始を祝う式典が開かれた。カサイ・ノート大臣は式典において、同事業を歓迎し、またマーシャル諸島経済の発展に寄与するであらうとスピーチした。

7百平米の工場建設工事は今週より始められる。

社長のオサナイ・ヨシアキ氏によると、大型漁船も来月より出漁可能となるとの事である。

マーシャル国内航空について

マーシャル諸島の島々に航空路を持つマーシャル諸島航空(M・I・A)については前号でも紹介しましたが、次々に新航路が開かれ、また便数も増えてきている様です。最新のタイムテーブルにより、マジュロよりクエゼリンへは週10便、アウル、マロエラップ、メジチ、アイリングラブラブ、ヤルリート、キリ、ノーモリック、アルノ、ミリ、ウトロック、アイルック、リキエップ、ウオッゼの各島々へは週2便、エニウエトック(ブラウン)へは週1便が運航している様です。

飛行機が増えて、座席数も増えているものと思われ。以上は本年3月17日付のタイムテーブルによります。

(山口良二訳)

靖国神社考

佐藤 宗 丕

○英霊を国がお祀りできない
靖国神社の経費は国家から出ている
と思ひこんでいる人が大勢おります。
国のため一命を捧げたのだから、国が
お祀りするのは当たりまえ、その約束
で死んでいったのだから、という遺族
や戦友の純真・素朴な認識は至極当然
でしょう。しかし、靖国の英霊を国が
お祀りできないのが、今の日本の現実
の姿です。

昭和二十七年、我が国を締めつけて
いた占領軍の鉄の鎖が解かれ、独立を
恢復した時から、靖国神社護持の運動
が遺族・戦友を中核として澎湃として
起こり、支持政党を動かして法制化へ
の一大国民運動となりました。昭和四
十四年には議員提案による「靖国神社
法案」が国会に提出されました。提案
者の中には、鈴木現総理や大臣経験者
が名を連ねております。

この法案は国会に提出されること五
度、そのつど、左翼政党・一部の労働
組合や宗教団体の猛反対によって廃案
となり、昭和四十九年には衆議院では
可決されたものの、参議院では廃案の
憂き目を見て、今日までそのままにな
っています。

五十五年六月の衆参両院同時選挙に

与党が圧勝したことによって、事情が
変わってまいりました。与党の選挙公
約に、靖国神社国家護持の一項があつ
たからです。桜内自由民主党幹事長は
「公約により靖国神社国家護持の実現
を検討する。法案は前回のものをもと
にする」と語ったと報道されていま
す。公党として当然のことです。

○神霊不在の神社？

今度こそは永年の願いが叶えられる
と期待している方が沢山いますが、喜
んではいられないことがあります。昭
和四十八年四月二十七日に提出され
た法案の骨子は「靖国神社という名称を
用いたのは、名称だけを踏襲したので
あって、靖国神社を宗教団体と解釈し
てはならない」「靖国神社は宗教活動
をしてはならない」「靖国神社の役員
(理事長・監事)・評議員、審議員は、
その時の総理大臣が任命する」等、は
なはだ物騒なものとなっております。さ
らに、衆議院法制局見解では「靖国神
社は宗教性を完全に排除し、霊璽(御
神鏡・御神剣)副霊璽(戦死者名簿)
祝詞奏上、降神・昇神の儀、修祓、御
神楽、拝礼(二拝二拍手一拝)の方式、
宮司・禰宜等の職名、衣冠束帯の服装
等々今の神社のあり方を全然別の、神
社らしからぬものに変えること」とな
っております。

○占領軍の鉄鎖まだ解かれず

靖国神社法案は、「神霊不在、伝統
破棄」が大前提となっているのです。

誰が案文を作ろうとも、現憲法第二十
条(信教の自由、国の宗教活動の禁止
〔政教分離〕と第八十九条(宗教団体
に公金支出の禁止)のある限り、前記
法案と大同小異のものとならざるを得
ません、占領軍の鉄鎖はまだ解かれて
いないのです。日本弱体化を企図した
「神道指令(昭和二十年十二月)」は
憲法に残されているのです。前記法案
作成者が、神社御創建の聖旨に背き神
霊を排除し、伝統を捨て去ろう(神を
畏れぬ言語道断の暴挙です)としても
なお反対派は絶対阻止の態度を変えよ
うとしません。

与党がもし多数を待(たの)み強行
採決した場合、反対派は法廷闘争に持
ち込んでくることは必定で、靖国の聖
域が赤旗と罵声のシュプレヒコールに
占拠される有様がいやでも目に浮かん
できます。もし、そんなことになつた
ら英霊に申し訳ないことです。

○百年河清待つ余裕ない

神社の国家護持が難しいなら、まず
「公式参拝の法制化」をこの運動もあ
りますが、これとても法理論としては
ともかく、神社法案と同様「憲法に抵
触する」とのいい掛りをつけられ、神
社法案の二の舞いとなるのは火を見る
より明らかです。

どんなに大勢の国民が願っても、現
憲法改正の日までは靖国神社国家護持
は不可能です。まして自主憲法制定を
党是としている政党の大幹部たちが憲

法改正に反対している実情からみて、
近い将来に私どもの願いの叶えられる
見込は全くありません。戦い済んで三
十有七年、遺族も戦友たちも年を重ね
余命が少なくなってきました。百年河
清を待つ余裕はもうありません。

○靖国神社の危機

あてにならない国家護持を待てない
事情は、靖国神社自体にもあるよう
です。神社の公刊誌「靖国」に「神社の
経営上の前途には晴天の日は少なく、
むしろ風雷雨雪の日が多からう」「日
本の行方と同様神社の前途は一層多難
を予想される。内憂外患とも至る
感が深い」「神社の経常費は約二億円
の不足」等等の減入の言葉がたくさ
んであります。

靖国神社は、明治二年に明治大帝の
聖旨によって創建されて以来二度目の
危機にあります。

昭和二十年の占領軍の「神道指令」
と、二十一年の「宗教法人令」の改正
で、靖国神社は解散か宗教法人として
登録するか岐路に立たされました。
結果、解散団体の指定を免れるために
止むを得ず宗教法人の枠内に入ること
となり今日に至りました。

二度目の危機は今日、只今です。

○靖国神社は私どもがお護りしよう
靖国神社の国家護持、公式参拝の法
制化の実現をめざして全国の大勢の方
々が真摯な活動をされております。
本会会員の中にも沢山おられること

と思います。心強い限りで頭の下る思いがいたします。粘り強くこの運動を続けると同時に、前に述べた「現在の靖国神社の危機」に私共はどう対処したらよいかを考えなければなりません。

五十五年十一月、靖国神社を奉賛することを目的として、靖国神社奉賛会（名誉会長は松平宮司）が創設され、活動を開始しました。

戦歿者の慰霊を唯一の目的とする私共のマーンシャル方面遺族会は、昨年の総会で協議の上、右の奉賛会に維持会員として入会しました。

靖国の英霊と最も御縁の深い私共一人ひとりが奉賛会の会員となって、靖国神社をお護りしようではありませんか。

付記

奉賛会の会費は必ずしも毎年一定額でなくてよく、その時の御都合で差支えない由です。

同会の事務局は次の通りです。

〒102 千代田区九段北三―一
靖国神社社務所 内
電話 〇三―二六一―八三二六



世 相 管 見

静岡県 市川市 市 郎

靖国神社に参拝のあと、始めて直会旅行に参加させて頂きました。

知人が居ないので若干の不安がありました。参加してみると同年代の人が多く話題も共通していて心安くすごすことができました。

私は、陸軍で南方に五年、満洲に二年あり、マレー半島で終戦となり、屈辱、忍従の長い日が二年余り続ききました。戦争はやるものではない。まして負けてはいけないと骨身に沁みて感じました。

復員船を待っていた或る夜夢をみました。弟に会いたい一心で遠くの島に行つたが、もう少しという所で嵐になり焦っていたところ、

「そこを動くな、そこからこちらに來ては駄目だ」

と風と波の音に混じって聞き覚えのある声、弟の声と気がついたトタンに眼がさめて、朝まで眠れなかった。

日本に帰って、二人の弟がクエゼリンとフィリピンで戦死したことを知りました。

私は日頃、単なる観光旅行はしないことにしています。今回の直会旅行のような意義ある旅行にはつとめて参加しています。一昨年は大東町遺族会で

フィリピンのカラリア霊場慰霊をし、四十八万余柱の御霊に涙しました。

次回のクエゼリン慰霊の時は、叔父と二人で参加させて頂きたいと思っています。

私は常々残念に思っていることがあります。それは、前途ある青年達が防人としての使命を果したお蔭で今日の日本の平和と繁栄があることを忘れた人の多いことです。

原爆犠牲者に対して世をあげて慰霊につとめるのは勿論当然ではありませんが、戦場で悪戦苦闘の末斃れた者を無駄死かのように特別扱いする気風のあるのは納得できません。戦死者に対しては原爆犠牲者の何倍かの礼をつくすべきだと思えます。

一身を捨てて国難に赴くのは古今東西を問わず最高の道徳とされています。悪意を以て靖国神社反対を唱えるなどは、以ての外と考えます。

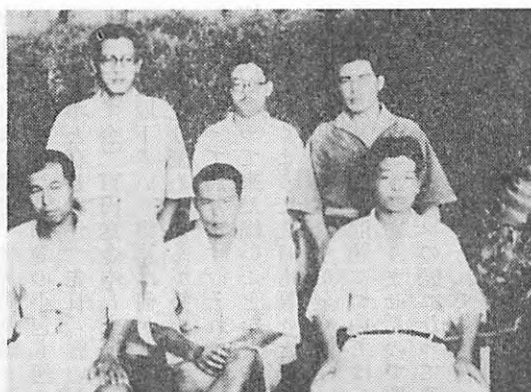
〒437-14 静岡県小笠郡大東町菊浜七五

こ の お 顔

見覚えありませんか？

仙台市 松本孝子

夫は「南洋群島ルオット島に於て、敵上陸部隊と交戦中戦死」とされております。隊は横須賀海軍施設部とも、又第四海軍施設部とも聞いておりません。



私は今、一枚の写真を大事に持っております。十八年八月頃、阿部様が届けて下さったものです。後列中央の眼鏡をかけているのは確かに私の夫です。

前列向かって右端は阿部様です。

阿部様のお話では、後列右端が、金井様、左端が杉本様、前列中央が高山様、左端が秋家様とのことでした。

この写真をほしい方には焼増してさしあげますので御知らせ下さい。

〒982 仙台市鉤取大谷地三ノ三三
松本孝子

戦地からの便り

東京 山口 裕 子

戦地からの便りは三十余通はあったと存じますが、空襲で全焼したため、母が肌身離さず持っていた二十余通が残りまして、今では兄の大切な形身になって居ります。この度久方振りに読み返してみますと島の様子、生活がしのばれまして感無量でございました。戦争の為に散華せねばならなくなった多くの方々の御心の中を思うと胸が痛くなり、遺族会のつながりの深さの謎が解けるようで感謝の他はございません。

(妹 山口裕子)

(発信者 古賀正太 大正八年生
海軍経理学校短現第9期。クエゼリ
ン島にて玉碎。第四工作部附、海軍主
計中尉 24歳)

(第1信 18・2) 拝啓 其後不
変の御事と存じます。鎌倉行の翌日
出帆。明日愈々任地へ入港の事となっ
ていますが船中相当の暑さと出港以來
ガブられ通しで相当参りましたが、今
日は又元気で食べ且つ寝ました。丁度
よい便がありますので托送致します。
御自愛下さい。皆様へよろしく。草々

母上様(註東京世田谷代田) 正太
(第一信 18・2・13) (朝鮮咸北羅
南北鮮水力電気株式会社内古賀織之助
様) 拝啓 其後は不変御壮健に御活

躍の御事と存じます。小生二月初旬内
地発当地に着任致しましたが、予定の
出発が延び延びとなった為、代田まで
二度程帰りましたし、鎌倉へも参り朝
吹様にも行きましたが御留守でしたの
で藤林先生を御訪ねしたり致しまし
た。

思ったよりも当地は暑くなく毎日の
様にスコールがありますし、夜は割に
涼しい風が吹きます。食事はカツオが
一番多くサンミも毎日です。果物が割
にありませんので小豆乍ら、毎日パイ
ヤ、バナナ、椰子の実等にありついて
居ります。仕事は非常に広汎な内容の
もので将来もつと細い如何なる配置に
ついては何とかやつて行ける素地が出
来そうに思われます。この夏風気は丁
度、松興里か洪君(註いづれも朝鮮水
力発電所現場)のようですので、時々
錯覚を起す事もあります。手紙が非常
に不正確に着きますので宛名符号をお
手数乍ら代田の方へ御一報被下ば幸甚
に存じます。経理学校で配給された物
全部を持参すべく一律に申渡され当地
にきてみて実に不用なものばかりよく
持ってきたものとあきれて居ります。
酒保物品は割にありますが何でもなく
思っていて、なくては困るものが実に
多いと痛感し父上様の御苦勞など今更
乍らしのばれて居ります。内地出発に
際し携行すべき物は、夏シャツ類、ゴ
ザ(シーツ代り涼しいからです)、浴
衣、下駄、洗面具、茶飲み、薬品類(

クレオソート、梅肉エキス、ビタミン
剤、カルシウム剤、マキキヨロ等) 蚊
取線香、半ズボン、ヘルメットは必ず
入用です。但し小生等は防暑服を貸与
されていますし酒保がありますので余
り困りませんが、今ほしい物は矢張り
下駄、草履(スリッパゴム裏の物)メ
タボリンの錠剤位のものであります。

小生は抹茶、煎茶、筆、奉書等もトラ
ンクに入れてきました。又船中陸上に
於ても懐中電灯と電車の車掌の持つて
いる様な笛は、いざと言う場合必須の
品であります。冬物は内地出発の際、
身につけているものだけで充分です。
飛行機に乗る際は上空で少々着込む必
要がある由です。では御体を御大切に
御自愛專一に御祈り申し上げます。こ
ちらも二三日経ったので仕事もどうや
ら目鼻がついて参りました。 敬具
御父上様 正太

(第八信 18・4・10)

三月二十二日付御手紙並に小包無事
難有入手致しました。相変わらず御元
氣の御様子何よりと存じます。先日御
送りしました鏝節も無事到着の由にて
安心致しました。夏服は何卒そのまま
御保管御願ひ致します。

さてさて小生早くも、横須賀郵便局
付ウ九〇ウ九六ウ五八へ転勤を命ぜら
れただけに赴任致しますが所轄は変り
ませんので今迄と同じ様な仕事に就く
わけです。先づは右取敢えず御知らせ
まで、薬品は先便にても御知らせしま

した通り小島主計中尉が、クレオソ
ート、メタボリン等少々内地より持参し
てくれましたので御安心の程を願いま
す。時候不順の折御自愛專一に御祈り
申し上げます。 敬具
御母上様 御一同様 正太

(註、この後の便りの中に朝鮮、東京
から続く下駄の小包発送通知を受け兄
は「ゲタゲタと……下駄が笑うこと
しよう」と書いて笑ってました)

(第十八信 18・10・17) 拝啓 同
五日付御便り又裕子智子よりの御便り
先日拝見致しました。其後相変わらず御
元氣の御様子にて安心致して居りま
す。

同時にポマード白靴墨等の小包並に
書籍は「重慶インフレーション研究」
を除き「日本工業史、世界貿易論共確
に入手致しました。印等の小包も何れ
到着する事と存じます。先日(艦いか
九二七)で金二百円送金申し上げまし
た故御受取下さい。書籍は何かと時間
がなくて充分読めませんが努めて消化
しようと思つて居ります。それでも学
校時代にやつて来た細いことをどどん
ん忘れて行くようで先日も吾々と同じ
仲間同志で話した事ですが全く情ない
次第ですが基礎的な問題については忘
れるにも忘れようがありませんので頭
の中の体系はガイコツの様になって残
つて居ると思ひます。それで益々吾々
は本を読み考え物事を観て行動して行
かねばなりません。特に世界情勢との

関連に於て日本全体に就てです。尚今心に懸る事は小山光貞君が近く（と言つても相当離れていて一寸会いにも行けません）に居るのですが、最近心臓脚気の由で心配するといけないからと誰にも知らせず小生だけに手紙で書いてきました大体起きているものの病気が病気なので余後の事もあり全く彼には将来うんと活躍して貰わねばならない人であるだけ殊更残念に思われます。

高橋、平野両兄は海軍ですか。館山と旅順とありますのでそう想像して居ります。岩元兄も在学中よりも御元気の御由、今後の御活躍を祈つて止みません。御父上も朝鮮電業の傘下にて益々御健闘の御事と存じます。先般京城日報送付被下承知致しました。内地も愈々多難の事と存じますが呉々も御自愛專一に御祈り申し上げます。裕子智子も何かと随分忙しく毎日を過されている事でしょう。乍末筆岩元兄へもよろしく御伝え御願ひ致します 敬具

御母上様

正太

(第一信 19・1) ハガキ

明けまして御目出度う御座います。今年には御父上様は御帰りはございませんでしたか。戦争が激しくなつて関釜連絡船も汽車も利用が困難になつたと存じます。こちらも大晦日正月無事過すことが出来ました。生糧品はあまりありませんが酒保の缶詰類をうんと配給致しましたので大変賑やかに過し

ました。清酒、スルメ、数の子、豆きんとん、焼のり、タラバガニ、みかん、パイナップル等々お餅も三ヶ日充分に喰べられました。一同更に頑張ろうと意気旺盛です。門松などは勿論ありませんが、器用な連中が思い思いに椰子で大変立派なものを作りました。気候もさすが幾分涼しくなり一頃より随分と過し易くなりました。先日練馬から便りがあり「独立ビルマ」の絵葉書を（註彫刻）頂戴しました。最近どちらからもあまり便りがありませんが便りがあれば小生には必ず幾通か来るので羨しがられています。新年になって便りがありましたので小山君に新聞雑誌のメタポリン錠一包も入れました早く心臓脚気が瘳つてくれればと案じています。近くヘソクリの一部金五百円也送金致します。ここで所持しているもつまりませんし御随意に御処分願ひ上げます。そのうち「書初め」（未だ書いていません）をお送り致します。では御一同様によろしく御伝言願ひ上げます。御序の際入手出来ればメタポリン錠一箱御送り下されば幸甚です。

(註・19年の第一信は東京に一月二四日に到着しています。書初めは遂に書けなかつた事でしょう)

横須賀局気付ウ五〇ウ九六検印山下
横須賀局気付ウ九〇ウ九六ウ五八
検印一通のみ佐立 以後古賀印
昭和十九年度より検印福原(参考迄)

会員の便りから

①住所 ②戦歿者とその続柄

神奈川県 佐藤 鉄太郎

環礁36号紙上のクエゼリン島墓参の記に青い空、白い砂浜、きれいな芝生に祭られていることを知り、胸の安らぎを感じました。

皆様御苦勞様でした。
昼間楽平様の歌に心うたれました。
(56・12・11)

①横須賀市小原台二―二二
②横廠造船部工長三上仙太郎殿の義弟

千葉県 相川 孝夫

役員みな様の汗の結晶による環礁誌いつも有難く拝読いたしております。継続するという事は努力と忍耐が必要です。御苦勞に對して、心から感謝申し上げ、御発展と御自愛を祈ります。

①市原市石の神四六一
②陸軍現役兵長 相川真悟殿(クエゼリンにて戦死)の弟

東京都 田 辺 喜 好

父喜一が本年五月一日八十六歳の天命を全とう致しました。環礁が来る度に弟の戦死の地南方に思いをはせて居たようでした。お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

少額ではありますが寸志をお送りいたします。皆様方に宜しく。(56・12・9)

①東京都西多摩郡五日市町山田八六三
②水長田刃政治殿(64警20・1・2
ウォッセで戦死)の兄

長崎県 林 文枝

年に一度のお便りほんの心ばかりで申し訳ございません。何時もながら御基力の程深謝致し居ります。益々お元氣でお導き頂きますようよろしくお願ひ致します。お蔭様で細々ながら高齢の母も元氣で何時の間にか私も還暦も過ぎて遺影と静かに語り合う毎日でございます。

お元氣で良いお年をお迎え遊ばしませう祈念致して居ります。

環礁36号及びクエゼリンとロイナムル戦記はんとに有難うございました。
(56・12・11)

①佐世保市東山町10―39
②兵曹長林 次六殿(エビゼ島で戦死)の妻

京都 稻 積 や 江

毎年の墓参御苦勞様でございます。厚く御礼申し上げます。どうぞ何時までもお元氣で遺族会のためお願ひ申し上げます。そして何時までもつづくことを祈るものでございます。(56・12・10)

①京都府野田川町幾地三六四

②六十三誓 上曹 稻積晴雄殿
(マロエラップで戦死)の妻

静岡県 山田 登世

いつもお世話様になります。来年もどうぞよろしくお願い申しあげます。環礁、環礁別冊共に大変の御苦勞御礼の申しあげようも御座いません。

(56・12・14)

①浜松市佐藤町七一八

②幸五七四部隊 山田秋男殿(ヤルト上陸直前戦死)の妻

愛知県 川越 コウ

お世話様になっております。環礁別冊「クエゼリンとロイナムル戦記」を読ませて頂き、只々思わず慟哭致しました。黒川様の手記でルオットの墓地にお参り頂きました御由、私も参加致せば良かったと悔まれます。軍司令部の建物が砲弾により大きな穴があいて破壊されておりました由、司令部内での亡き人の最後の瞬間を思い泣けて泣けてなりません。安らかに、静かに、何んにも考えずお眠り下さいと只祈るのみでございます。会費を差引き頂き残りを寄附させて頂きます。

(56・12・17)

①名古屋市千種区月ヶ丘2-2-25

②二十四航戦参謀海軍中佐樺山末雄殿
(ルオットで戦死)の妻

東京都 中村 喜久代

57年度の会費がいくらか判りませ

るので、それを差引いたのこりを寄附金として下さいませ。(56・12・22)

①世田谷区松原六四〇-二

②六十三駆落隊司令海軍少佐中井三郎殿(クエゼリンで戦死)の妻

長野県 宮下 礼子

浮田様 いつも領収証の通信欄に、お言葉を頂き有難うございます。今回はルオット島の戦記が大部くわしく書かれた「戦記」を頂きまして本当に有難うございました。夫の戦死の地でございますので、うれしく拝見いたしました。今後共ご健康に留意されましてよろしくお願い申し上げます。

(56・12・28)

①松本市大村四三二

②二八一空。海軍少尉宮下清人殿(ルオットで交戦中戦死)の妻

広島県 江坂 富子

唯今環礁36号と別冊を拝受いたしました。皆様御多用にあらせられます中に、色々と御高配を頂きながら何一つお手伝いもできないのを心苦しく存じ上げます。唯々有難く安堵と感謝ともるもろの想い出に合掌いたしております。36号のギルバート諸島慰霊の記事は泣いて読ませて頂きました。お暑い所で本当に御苦勞さまに存じます。

浮田様には長い間のお世話の上、この度は慰霊碑建立をお進め給わりまして勿体なく思います。是非お手伝いさ

せて頂きとう存じますが、どれ位の金額か想像もつきませんので凡その額をお知らせ頂きたくお願い申し上げます。実現までには色々難しい問題もあることと思えます。御苦勞の多いことと存じます。完成いたしました暁を想像して、今まで生きてきた喜びを噛みしめております。(56・12・13)

①広島市西区鈴ヶ峰町一公団五一〇

②三特根先任参謀海軍大佐江坂 弥殿
(ギルバートで戦死)の妻

広島県 浜本 米一

南東空廠二支廠 浜本日出夫殿(ルオットで戦死)の父浜本米一殿から振替通信欄に認めおくられて来たもの14通

①広島市中区江波本町九一四

42・8・4

誠に些少ですが何かにお使い下さい

43・12・27

会費と写真一組を差引き残金は少しですが何かにお使い下さい。

44・12・27

この度びは御親切に有難う御座います。環礁を頂きましたが私が病氣をして居りますので遅れて相済みません。

会費を人に頼んで送りましたのでお受取り下さい。老人の上病床に居りますので御無沙汰致しますがお許し下さい。何時御返事が出せぬようになるかも知れませんが、今後とも宜しくお願

い致します。毎日病床で戦死した子供の写真や環礁を見ながら皆様の御祈りをして居ります。

47・1・13 (通信欄に記載がない)

48・1・8 病床に有る為、旅行には参加不能。

49・1・12 (会費のところに○印、寄附金のところに、其他とのみ記入あり)

50・1・7 会費ノ他ハ何かニオ使ヒ下サイ

51・1・17 今後共何トソ宜敷クオ願ヒ致シマス

度々御手数数ヲカケ相済ミマセン

何分86歳ニカ月ノ老人ノ事デ靖国神社ノ参詣モ出来ズ毎日床ノ中デ寝タリ起キタリシテ居リ誠ニ申訳ケアリマセン

ガ今後共宜敷御願ヒ致シマス

誠ニ少イノデスガ会ノ費用ニ当テテ下サイ

52・1・6 毎度ながら御世話様に成り誠に有難う御座います。本日少しですが上記の金、送金しましたので会費の残りが有りましたら何へなりとお使い下さい。

次に大変御無理なお願ひですが、御承知の通り私の子供は19年2月4日クエゼリン環礁ルオット島で、米軍上陸の際全員と共に戦死したのです。

彼が出征の時、若し敵の捕虜にでもなるような時には自刃せよと言って長

さ30cm位の刀身に竜の彫物の有る家宝のタン(註・短)刀を持参させました。若しあの時上陸した米軍の内に此品を持ち帰って居られる方が有りましたら送り返して頂いたら老先少い88歳の老人の死出の土産に何よりの嬉びなです。これは不可能な無理とは承知して居るのですが、遺骨も遺品も無いので、老人のぐちで御許し願います。

若し折が有りましたら、米軍の方に一度間合わせてもらったらと願います。お忙しい会長様初め役員の方に相済まぬのですが、先の無い老人をあわれと思ってお許し願います。

△註・振替の通信欄の中に以上の全文がキレイに書かれています。V

52・12・8 (金額の他記載ありません)

53・12・14 (金額のみ記載)

54・12・7

毎度ながら御世話になりました。厚く御礼申します。私事も90歳を過ぎ目下病座(?)に付身体の自由も思うよう出来ないものでこれが最後になるのではないかと思われませんが、今後共宜敷お願ひ致します。尚会長様初め皆様のお自愛を御祈りします。

56・1・5

毎度御世話様になります。会費が遅れて相済みません。私事昨年以來病床に居りますのでお許し下さい。今後共宜敷御願ひ致します。皆様

御健勝の程お祈りします。おわび迄。故日出夫の父 浜本米一

56・12・14

誠に少して申訳有りませんが、私病床に居りますのでお許し下さい。

ギルバート諸島戦歿者慰霊碑
現地除幕式・慰霊祭の御案内

事務局

キリバン共和国大統領閣下の格別のお取計いによって、予想以上に早く建碑の実現を見ることになったのは、英霊にとつて又関係者にとつて、この上ない大きな幸せでございます。以下計画の概要を述べます。

◇行 動 予 定

11月21日(日)靖国神社に奉告参拝し
結団式、成田空港発(20時55分)

11月22日(日)グアム着、慰霊・戦跡めぐり。クエゼリン經由マジュロ着
11月23日(火)島内見学、(島の皆様と交歓会の予定)

11月24日(水)マジュロ発タラワ着、表敬訪問事務打合せ、ベシオ島の戦跡めぐり。式典準備。

11月25日(木)玉碑の日。ベシオ島慰霊公園で慰霊碑の除幕式、慰霊祭

11月26日(金)タラワ発、ナウル着
11月27日(土)ナウル発、サイパン着

11月28日(日)グアム着、慰霊・戦跡めぐり。クエゼリン經由マジュロ着



サイパン島慰霊、戦跡めぐり、サイパン発、成田着(19時35分)
◇費用その他について
◎費用は、参加者25名以上の時は一人に付、約38万9千円

◎申込みは、はがき又は封書で、7月15日までに、申込金1万円と共に本部にお送り下さい。

電話での申込みはお受けしません。

◎行動予定の細目を知りたい方には、御連絡次第日程表をお送りします。

◎ホテルの収容人員の関係で、参加数が制限された時は、遺族優先、申込順を原則として参加者を選考します。

◎高齢者には付添人が必要です。

◎参加頂く方には旅行手続その他を詳しくお知らせします。選考に洩れた方にはその旨を御通知します。

事務局だより

◎浮田会長のその後

今年の2月6日には、創立以来始めて欠席し皆様に御心配をおかけしましたが、お怪我は既に全治して頗るお元気です。11月には責任者としてタラワ島に行くことになっております。

◎事務局職員決定

安藤さんの後任者、高津佐喜子さんが5月1日から勤務して下さっております。高津さんは、安藤さんのように厚生省援護局に永年勤務した方です。

寄 附 者 芳 名

(敬称略)
(四五六名)

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり
本会運営に寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げます
おられます。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致しま
すので今後共御協力頂きたく御礼と共に御願い申し上げます。
(昭和56年11月1日から昭和57年5月31日までに入金の分)

篤志会員その他

四七九四三

クエセリン島

中田 勇殿

一〇〇〇〇

直会旅行者一同

一〇〇〇〇

嘉村 栄殿

一〇〇〇〇

桑 一殿

一〇〇〇〇

高田源次郎殿

一〇〇〇〇

中島新之丞殿

一〇〇〇〇

星川 武殿

一〇〇〇〇

恩田 寛次殿

一〇〇〇〇

木下 甫殿

一〇〇〇〇

島根 宏明殿

一〇〇〇〇

瀬沼 光久殿

一〇〇〇〇

星加 隆夫殿

一〇〇〇〇

前田 幸子殿

一〇〇〇〇

矢崎 寧之殿

一〇〇〇〇

江藤 圭一殿

一〇〇〇〇

高野 庄平殿

一〇〇〇〇

土屋 太郎殿

一〇〇〇〇

十二 徳次殿

一〇〇〇〇

松平 永芳殿

北海道

三〇〇〇〇

父 三関 武治

二〇〇〇〇

兄 黒沢 克巳

一〇〇〇〇

長男 大野 優

一〇〇〇〇

兄 坂野 猶蔵

一〇〇〇〇

妹 小野 幸夫

一〇〇〇〇

弟 中山 キミ

一〇〇〇〇

妹 瀬法寺フサヨ

一〇〇〇〇

長女 鈴木 久子

一〇〇〇〇

妹 伊藤 フジ

一〇〇〇〇

妻 工藤 ハナ

一〇〇〇〇

妻 本堂 テフ

一〇〇〇〇

兄 小笠原岩勝

一〇〇〇〇

母 田中 ロク

一〇〇〇〇

妻 塚原 ハナ

一〇〇〇〇

兄 荒谷美佐男

一〇〇〇〇

妻 伝福 ちあ

一〇〇〇〇

母 藤田 キク

一〇〇〇〇

妻 刈屋みさを

一〇〇〇〇

妻 菅原 キイ

山形県

三〇〇〇〇

妻 大場美津子

二〇〇〇〇

妻 丹野 アサ

一〇〇〇〇

妻 渡辺 ミノ

一〇〇〇〇

妻 大泉 時子

一〇〇〇〇

妻 富田 ミツ

一〇〇〇〇

妻 坂本 吾郎

一〇〇〇〇

妻 吉田 ハル

一〇〇〇〇

妻 石橋 節子

一〇〇〇〇

妻 馬場 樹雄

一〇〇〇〇

妻 吉津ミドリ

一〇〇〇〇

母 大熊 もと

一〇〇〇〇

妻 若狭 明光

一〇〇〇〇

母 堀内 誠一

一〇〇〇〇

父 宮内 保

一〇〇〇〇

父 遠峰 軍治

一〇〇〇〇

父 植木市太郎

一〇〇〇〇

母 神山 さく

一〇〇〇〇

母 吉川 芳蔵

一〇〇〇〇

弟 木村 亘三郎

群馬県

二〇〇〇〇

母 森 ゆき江

一〇〇〇〇

父 井野 彦太郎

一〇〇〇〇

父 滝沢 謙次郎

一〇〇〇〇

妻 小谷中 せい

一〇〇〇〇

妻 柴田 貞子

一〇〇〇〇

妻 土屋 トミエ

一〇〇〇〇

妻 藤田 きよせ

一〇〇〇〇

妻 浅野 チカ

一〇〇〇〇

妻 小田原 利子

一〇〇〇〇

妻 幸島 敬一

一〇〇〇〇

妻 近藤 マスエ

一〇〇〇〇

妻 菅井 せい子

一〇〇〇〇

妻 福島 レイ

一〇〇〇〇

妻 大野 とみ子

一〇〇〇〇

妻 岡安 宏

一〇〇〇〇

妻 栗原 タネ

一〇〇〇〇

妻 長谷部 なを

一〇〇〇〇

妻 津久井 艶子

一〇〇〇〇

妻 加瀬 よし

東京都

二〇〇〇〇

妻 黒川 文江

一〇〇〇〇

妻 小泉 文江

一〇〇〇〇

妻 中村 喜久代

一〇〇〇〇

妻 國松 ふみ江

一〇〇〇〇

妻 荒井 福栄

一〇〇〇〇

妻 浮田 信家

一〇〇〇〇

妻 佐竹 エス

一〇〇〇〇

妻 井上 賀雄

一〇〇〇〇

妻 岩浪 きよ子

一〇〇〇〇

妻 大高 吉郎

一〇〇〇〇

妻 木村 久子

一〇〇〇〇

妻 浄永 孝

一〇〇〇〇

妻 鈴木 つな子

一〇〇〇〇

妻 高橋 鎮三

一〇〇〇〇

妻 内海 軍三

一〇〇〇〇

妻 土岐 遠雄

一〇〇〇〇

妻 徳田 順一

一〇〇〇〇

妻 橋口 昭利

一〇〇〇〇

妻 昼間 楽平

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

妻 橋口 昭利

